

知的・発達障がいの特性を知ってもらう種まき活動の機会をいただきましたこと、紙面を通して関係者の皆さまに感謝申し上げます。

立川キャラバン隊「ひこうき雲」公演報告

ありがとう
ございました

理解啓発委員会 委員長 水野夏美

★5月26日 学校法人クリスチャン・アカデミー・イン・ジャパン初等部5年生対象公演

東久留米市にある貴校は、私の娘が特別支援学校高等部時代、担任だった先生の娘さんが通う学校です。高等部で卒業を控え、障害福祉についての卒論を書くにあたって、「ひこうき雲の公演を学校で開催してほしい。公演を見てみたい。小学生や先生方にも障害に対する考えをもう一度見直すきっかけにしてほしい…」と、女子高生 A さんが熱い想いを私に投げかけ、緊急事態宣言中にも関わらず学校に直談判し、公演開催に至った次第です。そのまっすぐな想いの女子高生と応えてくださった学校の校長先生や先生方の想いがうれしく、4人のメンバーで初のインターナショナルスクールで公演をして参りました。とは言え、日本語がわからない生徒さんがいらっしゃるということで、Aさんが通訳しながらの公演でした。私たちの方が、自分たちの子どもが日頃感じている「言葉が不自由」の逆体験でした。私たちの伝えたいことが伝わるか、多少の不安あったスタートでしたが、終わってみると言葉の壁は感じることなく、子どもたちの反応は、いつもの小学生と一緒に、笑いながらの体験の中で何かを感じてくれたことと思いました。



公演が終わった後に、先生から、「この学校にいる子どもたちも日本にいるのに日本語が上手に話せないため、地域社会で生きづらさを経験している。自分自身(先生)も、過去に見た目は日本人だけれども日本語がしゃべれなかったため『なんでしゃべれないんだ!』等、差別的な発言をされたことがある。なので言葉の不自由の体験は気持ちがよくわかります。」などのお話がありました。普段、あまり考えもしませんでしたが、異文化も生きづらさがあることを、私たちが学ぶことができました。見た目ではわからない生きづらさは様々な人々にあり、でも周りのやさしさや配慮、手助け、思いやりなどで安心や安堵の気持ちに変わることを、改めて気付かされました。



言葉の不自由の体験からスタート

【Aさんからの終了後にいただいたメール】 今日はお忙しい中、お時間を割いて講演をさせていただき、本当にありがとうございました！ 5年生の児童だけでなく、先生方も「とても勉強になった」と言って下さり、私もとても素敵な経験をさせていただいた事をとても嬉しく、感謝しています。今日お越しくださったひこうき雲の皆さんにも、私が「集まって頂き本当にありがとうございました」とお伝え下さい。今回のこの講演は、私も含め5年生の児童みんながこれから社会に出て行く中で「障がい」に対する考えをもう一度見直す大きなきっかけであり、実際に障がいという物に対する思いが変わったように感じました。講演中も児童みんなが積極的に参加し、発言していた姿勢を見て、ひこうき雲の皆さんを学校に呼べた事、講演をしていただけた事を本当に嬉しく思います。私は今年で卒業してしましますが、J先生と校長先生がおっしゃっていたように、是非また来年、再来年とCAJで講演をしていただけるよう願っています！とても楽しく学ぶことが出来ました！素敵な講演と経験を本当にありがとうございました。



ペットボトルメガネ体験



アイドル！
「ひこうき熊ちゃん」



手先の不自由の体験

コロナ禍で久しぶりの公演でしたが、私たちの方が貴重な経験をさせていただき感謝感激でした♥